



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

'95 10月号



＜クツワムシ＞

減る虫・増える虫

■秋の特別展では、私たちの身近にすむ直翅類（ちょくしるい＝キリギリス・コオロギ・バッタ類）の種類と生活を紹介します。

■神奈川県には全部で111種類の直翅類が分布していますが、その中には、減っている種類と増えている種類があります。減った種類の代表は、ガチャガチャガチャ・・・とにぎやかに鳴くクツワムシです。1980年代の半ばまでは平塚の市街地にも見られ、浅間町の八幡神社でもたくさんの声が聞かれました。しかし、最近では土屋の愛宕山などごく限られた場所でしか見つからないほどになってしまいました。これは、街中からつる草の茂ったヤブがなくなったことが原因と思われます。マツムシ・スズムシなども減少が目立つ種類

です。

■一方、急激に増えている種類にアオマツムシがあります。アオマツムシは中国原産の帰化昆虫で、明治時代に東京で初めて見つかりました。その後市街地を中心に分布を広げ、特に戦後いちじるしく増えています。現在では、神奈川県ではもっとも目立つ鳴く虫で、バスや電車の窓から聞こえる虫の声は90%アオマツムシと違って間違いありません。

■このように鳴く虫の世界にもいろいろな変化が見られるのです。＜秋期特別展より＞

＜アオマツムシ＞

です。

◇秋期特別展◇

「鳴く虫・はねる虫 ー湘南の直翅類(ちょくしるい)ー」

●会期/10月1日(日)～11月12日(日)

●会場/博物館特別展示室

●主な展示資料/直翅類標本(約300点)・生態写真(約100点)・マイコンによる画像と声の展示

郷土玩具の世界—中田コレクションより— 18名の実習生による展示

博物館では、毎年9月になると大学生を実習生として迎えています。今年も9月12日から20日まで、16大学18名の学生がやってきて、学芸員の指導のもとに博物館の仕事を体験してきました。

実習初日は館の概要説明を受けた後、班ごとに分かれて、展示内容の見所と注文点を討議し、結果を「ビギナーズガイド」としてまとめました。

2日目から4日目までは、考古・歴史・民俗・生物・地質・天文の6分野に分かれ資料整理、展示設営補助、現地調査、フィルムの実像、写真の焼き付けなどの実習を体験しました。

残りの3日間は、恒例の寄贈品コーナーの展示製作に挑戦しました。今回実習生に与えられた展示テーマは、「郷土玩具」です。展示に先立って、郷土玩具コレクションを寄贈して下さった子ども民俗研究家の中田幸平さんにお話しを伺いました。展示にあたっては郷土玩具をてあそび物・飾る物・縁起物、そして神奈川の郷土玩具に分けました。また、寄贈品コーナーの前に縁台を出し、遊びを体験できるスペースを設けました。日本各地から集められた懐かしのおもちゃや素朴な願いが込められた縁起物が、人待ち顔で並んでいます。お見逃しなく。

～実習を終えて～

●私は、今回、他の17名の実習生とともにこの平塚市博物館で、正味7日間の実習を受けました。資料整理実習では、発掘に参加させていただいたり、土器片の拓本をとったりしました。これらの作業は、1回はやったことのあることでしたが、なかなかうまくいかず大変でした。展示製作実習では、郷土玩具の展示を構想から行いました。私にとっては、初めての経験で、どのようにしたらよいかかわからず、たいへん手間どり一時はどうなることかと思いましたが、18名力を合わせ、時間オーバーの末、無事(?)に完成させることができました。みなさんから見ると、「まだまだ…」と思われるかもしれませんが、この7日間の努力が現れた展示で、私は満足することができ、充実した実習ができたと思います。(坪井志津子)

★短い期間だが、実習生として博物館の仕事に触れることができ、とても充実している。毎日が新鮮な気持ちで、数多くのことを経験できる。とても楽しい。

資料整理実習では、主に墓石調査を行ったが、いつもは机に向かって文献や史料とにらめっこという勉強が主だったため、不慣れな点も多くあり、皆様にさんざん迷惑をかけてしまう羽目となった。しかし、自分では満足してるからいいけど…。

展示製作実習では、大したことはできなかったけれども、自分の力が出せる部分で十分に力を出した。仲間達との協力もあって、とてもすばらしい展示になった(どう評価されるかは知らないけど…)。

学芸員の方々の温かい指導と良い仲間のおかげで、いい実習期間を過ごせた。本当に心の底からありがとう。今回の経験はきっと今後、いい影響を与えてくれると思う。(松本勝吉)



◆7日間という短い期間ではありましたが、資料整理から展示製作まで、普段見ることのできない裏側を見て、そして実際に作業することができました。そのなかで、資料整理においては、いかに資料を今後の貴重な財産として整理していくべきなのかを学ぶことができました。また展示製作では、いかにわかりやすく見やすく展示したらよいかという展示の難しさ、そして楽しさを実感しました。さらに、この博物館実習を通して、この平塚市博物館には様々な人々が関わっていることを知り、博物館を成り立たせているのは、学芸員ばかりでは決してなくて、多くの市民によっているものであるということも知りました。私もこの実習に参加したことを機会に少しずつでも博物館との交流を深めていけたらいいなと思いました。また、他のまだこの博物館の活動をあまり知らない人たちにも少しでも多く、博物館の良さを知ってもらえたら素晴らしいことだと思います。(高橋庸子)

夏期特別展「44万7,716本の軌跡」の感想ノートから

夏期特別展「44万7,716本の軌跡—平塚の空襲と戦災—」は、7月15日から8月30日までの40日間開催されました。この期間、展示を見るために来館された方々は、およそ2万人余、展示解説として頒布した展示図録も1,400部余を越えました。この数は、当初予想した来館者数および頒布数をはるかに凌ぐものになりました。改めて来館し、展示を見て頂いた多くの皆様に、紙上を借りて感謝申し上げます。

時宜を得たテーマによる企画と、頒布図書を安価に抑え提供することが、如何に多くの市民の方々の関心を引き起こし、来館者数と頒布数の増加に結びつくか、改めて認識したところです。

ところで、特別展の期間中、博物館では来館された方々に展示を見て感じたことを自由に表現して頂くという一冊の「感想ノート」を置き、来館者の声をお聞きしました。この種の「ノート」を置いた場合、紙面が落書きにより満たされるケースが多かったのですが、今回は様子が違い、実に多くの方が「戦争に対する思い」や「展示に関するご意見」を寄せて下さいました。その数270件余ノート2冊分に及びます。感想や意見を寄せてくださった方々には、特に、戦争体験のない若い人々が多かったといえます。

小・中学生の言葉には、「平塚が空襲を受けた事実にはじめて接した。」ここ（博物館）へ来て、戦争や空襲による辛さ、悲しみ、苦しみ、本当の恐ろしさが（展示を）見ているだけで実感できる” ”僕ぐらいの子が（戦争のために）働くなんで信じられない”とあり、「私は戦争というものを体験はしませんでした。だからと言って「私にはカンケーない」なん思うのではなく、次の世代の人にこんなことがあったんだよ。もう沢山のひとをなくした戦争は、もう二度と起こしてはいけないよ！起こってほしくない！」と呼びかけ

たいと、小学生はその思いを綴っています。また、一度だけでなく二度・三度、多い人で五・六度も博物館に足を運んだ小・中学生も中にはいた様です。そして、「何度来ても胸が締め付けられる思いです」とあるのは、ある中学生の言葉でした。

戦場体験や空襲体験を持った方々からの言葉も、決して少なくありませんでした。”50年前の平塚の空襲を昨日の事の様に思い出します” ”50年振りに（写真を通して）見る平塚には、胸が一杯になります” ”悲惨なああ光景はもう見たくない”の言葉が綴られます。渦中にあった人々は、当時を懐かしみつつ、平塚空襲の目的や規模をあらためて知った方々も多かったようです。そして体験者の一人として、「体験を語り継ぐことの大切さ」や、こうした展示が”一過性のものでなく持続して行うことが重要である”と指摘しています。さらに、戦争は被害者であると同時に加害者にもなりうるということから、「戦争での加害者としての立場をもっと明確にする必要がある” ”「兵隊さんは戦場で何をしたのか」「火薬しょうでつくられたもの（砲弾や火薬）はどう使われたのか」の観点が（展示には）ない”との厳しい指摘も寄せられています。今回の空襲に関する展示は、「（空襲展であるが故に）被害者の立場で展示を構成することが基本」と考え企画し実施したものです。こうした意図が十分に入館者に伝わらなかったことを反省するとともに、指摘に対しては真摯に受けとめなければならないと考えております。

反響の大きさは、前述したように予想を超えるものでした。したがって、このまま終わらせることのない様に、今後ともさまざまな企画を通して戦争や空襲を語り継ぎたいと考えております。

39歳で徴兵された祖母より帰ってこなかった。祖母と父の人生を変え、今の私にも影響を戦争はつなげています。ふだんは意識することか「ほとんどないが、の半生にも空襲があったんですね。去年の秋、せくになった祖母から、もと戦争の話を聞いてあげたよ。父や母も、ぜひ連れて来て、この展示を見せてあげたいと思います。十博物館の方々、このような展示を催して下さい、ありがとうございます。

四之宮 27歳 女性

私は戦時中旧海軍少将殿内の海軍技術研究所に勤務し、この頃の空襲にたいし研究所に向い途中芝浦病院付近で爆撃の爆撃の合、自転車を降り出して逃げまじり、梅ヶ丘直撃の命から、から取逃の防空壕にいそいで入り息をこしておられた朝明は、外へ出て見たら一面の境野原が焼けて同僚と知り、この後どうなるの、心配し詰まらした。それから終戦は、残務整理等、勤労奉仕は全然わがらから、8月15日の終戦が研究所は解散、第一生は一層恐ろしい思いとわがらからこの時が、一番の苦しみです（旧海軍工員四之宮 在位）

50年前に、この展示を見て、祖母と父の人生を変えた。祖母と父の人生を変えた。祖母と父の人生を変えた。

50年前に、この展示を見て、祖母と父の人生を変えた。祖母と父の人生を変えた。祖母と父の人生を変えた。

■博物館カレンダー■

10月の行事予定

| | | |
|----|---|--|
| 1 | 日 | 秋期特別展開催<至:11月12日> ○自然観察ゼミナール「鳴く虫入門①」 地質調査会(野外) |
| 7 | 土 | ○自然観察ゼミナール「鳴く虫入門②」 地質調査会(館内) |
| 11 | 水 | 地質調査会(館内) |
| 13 | 金 | ◎星を見る会 「土星を見よう」 |
| 14 | 土 | 古文書講読会 ◎漂着物を拾う会(平塚海岸) |
| 15 | 日 | ○自然観察ゼミナール「鳴く虫入門③」 相模川の生い立ちを探る会 「海辺の石の由来・二宮～国府津海岸」 |
| 18 | 水 | 裏打ちの会 |
| 21 | 土 | 平塚の空襲と戦災を記録する会 天体観察会 |
| 22 | 日 | 古代遺跡を探す会 |
| 24 | 火 | ◎星を見る会 「部分日食を見よう」 |
| 25 | 水 | 裏打ちの会 |
| 28 | 土 | 古文書講読会 |
| 29 | 日 | 地質調査会(野外) |
| 31 | 火 | 月末休館日 |

11月の行事予定

| | | |
|----|---|---|
| 4 | 土 | 地質調査会(館内) |
| 8 | 水 | 地質調査会(館内) |
| 11 | 土 | 古文書講読会 ◎漂着物を拾う会(平塚海岸) |
| 12 | 日 | 相模川の生い立ちを探る会 「白山～巡礼峠・厚木市」 ○体験学習「和紙をすこう」 ○自然観察会 |
| 15 | 水 | 裏打ちの会 |
| 18 | 土 | 平塚の空襲と戦災を記録する会 地質調査会(館内) 天体観察会(月光天文台:至19日) |
| 19 | 日 | 古代遺跡を探す会 |
| 24 | 金 | ◎星を見る会 「土星」 |
| 25 | 土 | 古文書講読会 |
| 26 | 日 | 地質調査会(野外) |
| 30 | 木 | 月末休館日 |

◎は参加自由 ○は申し込み制 他は会員制

プラネタリウム一般投影:9/9～11/5

「大気圏のかがく」
寄贈品コーナー:9/21～10/29 <実習生による展示>
「郷土玩具の世界-中田コレクションより-」

■星を見る会「土星を見よう」■

◇うすい環をかすかに傾けた土星の姿を望遠鏡で眺めます。
開催日:10月13日(金)
時間:19:00～20:00
場所:博物館屋上
集合:博物館:1階科学教室
参加:自由
備考:曇・雨天時中止

■星を見る会「部分日食を観察しよう」■

◇今回は、太陽の下のほうが少し欠ける部分日食を観察します。
開催日:10月24日(火)
時間:13:00～14:30
場所:博物館屋上
集合:博物館:1階科学教室
参加:自由
備考:曇・雨天時中止

■参加者募集:「自然観察会」■

◇松岩寺～鷹取山～生沢まで雑木林を歩き、秋の自然観察をします。
開催日:11月12日(日)
集合:午前9時・平塚駅北口階段下
場所:平塚駅→松岩寺～鷹取山～生沢→平塚駅
参加:10月30日(月)までに、往復はがきで「博物館:秋の自然観察会」係まで、お申し込みください。<家族で参加の場合は1通で可>
その他:交通費各自負担(大人:700円位)

■体験学習参加者募集:「紙すき」■

◇手すき和紙の作り方を体験します。
開催日:11月12日(日)
時間:9:30～15:00
場所:博物館科学教室
参加費:700円
参加:10月30日(月)までに、往復はがきで「博物館:紙すき」係まで、先着15名。

◎高校生以下に特幸!◎

今月からプラネタリウム観覧料が無料になります。第2・第4土曜日の学校休業日に限り、高校生以下の方々の観覧料が免除されます。ただし、春・夏・冬休み中は除きます。受付で必ずご本人がお申し出ください。お一人一枚限りとさせていただきます。

◎行事に関するお問い合わせは、平塚市博物館 管理係・学芸係 TEL 0463-33-5111 FAX 0463-31-3949 まで。

あなたと博物館 20巻7号 通巻224号 ©3000 発行 平塚市博物館
〒254 平塚市浅間町12-41 TEL:0463(33)5111 FAX:0463(31)3949 ※この用紙は再生紙を使用しています